

講義コード	519401102	
講義名	保育者論 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	横井 夏子	女子短期大学部
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

### 授業の概要

#### 授業の概要

本授業では、保育者という専門職のあり方について理解を深めるために、保育者という専門職の特色を多角的に捉えていく。<sup>1</sup>年次での実習の振り返りや<sup>2</sup>年次の実習の準備も含めながら、「保育者になる」とはどういうことなのかを理論的に深めていくことを目指す。

#### 授業の方法

##### ①プレゼンテーションの方法

授業では、板書、配布印刷物、視聴覚メディア等を用います。

##### ②授業形態

講義とグループワークを行ないます。

##### ③アクティブラーニングの有無

授業の後半部は、学生によるプレゼンテーションが中心になります。

プレゼンテーションを聞く学生には、コメントシートの提出が求められます。

##### ④課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションを行った学生に対しては教員側から口頭による評価を行なうとともに、他の学生からのコメントが閲覧できるよう資料を配布します。

### 授業の到達目標及びテーマ

本授業の到達目標は、保育者という専門職のあり方について理解を深め、保育者として子どもと関わることの意味について、多角的に説明できることです。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当します。特に①②を重視します。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「6.他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための科目です。

### 授業計画表

回	項目
第1回	オリエンテーションー保育者論を学ぶとは
第2回	保育(者)の特徴と意義
第3回	保育者の専門性(1)保育者の一日/一年
第4回	保育者の専門性(2)子どもの内面や発達を理解する
第5回	「よい保育者」と「質の高い保育」とは
第6回	保育者の必要条件(1)法令・制度
第7回	保育者の必要条件(2)倫理観

第8回	遊びを援助するとは（1）遊びの理論
第9回	遊びを援助するとは（2）遊びのプロデュース
第10回	遊びを援助するとは（3）遊びのプレゼンテーション
第11回	保育に関わるおとなたち（1）家庭や地域との連携・支援
第12回	保育に関わるおとなたち（2）同僚性・学びあい
第13回	人権を尊重する保育の現代的課題（1）自然や文化との出会い
第14回	人権を尊重する保育の現代的課題（2）社会や世界との出会い
第15回	まとめ一学び続ける保育者

## 授業時間外の学修

予習としてテキストで該当する章の事前読了を求めます。各回の予習には90分かかると想定されます。また、復習として、レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。内容理解を深めたり、自らの思考を整理したりするために、ミニレポートを課すことがあります。各回の復習には120分かかると想定されます。

## 実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

## ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
◎	◎	○	○

## ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
集团的思考に取り組み力	自発的にテーマについて考えとともに、他者の考えを傾聴し、リーダーシップを発揮しながら多様な考えを関連づけ、発展させることができる	自発的にテーマについて考えとともに、他者の考えを傾聴し、多様な考えを関連づけながら活動に取り組むことができる	自分なりにテーマについて考えたり、他者の考えを傾聴したりしているが、多様な考えと活動との関連づけが不十分な場合は、支援をしている	自分なりにテーマについて考えたり、他者の考えを傾聴したりすることが難しい場合には、他者の考えから手がかりを得られるよう、支援をしている
分析・考察力	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し説得力のある形で結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけていると認められる	調べた結果のみではなく、それを自分なりに解釈し結論づけようとするが、説得力に欠ける	調べた結果のみを提示するに留まる場合は、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
文章構成力	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができており、レポートの文章構成が優れていると認められる	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができておりと認められる	高等教育を受ける者としてやや相応しい文章表現ができておりと認められる	高等教育を受ける者として相応しい文章表現ができていない場合には、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている

## 成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	70%	学期末に定期試験を行います。
小テスト等		
成果発表	10%	授業内でグループを作ってプレゼンテーションを行い、その内容を評価します。

授業への貢献度	20%	授業内でのコメント・質問の内容を評価します。
レポート		
その他		

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	その都度解説、講評する	その都度解説、講評する

## ICTを活用した双方向型授業の内容

等 ム ム	クリッカー、アンケート、小テスト ビデオ会議システム チャット
-------------	---------------------------------------

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである
-------------------------------

## アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用		授業後レポート

## 教科書

とくに指定しない。  
適宜資料を配布する。

## 参考書

適宜紹介します。

## SDGsとの関連

に	4. 質の高い教育をみんな
---	---------------

## 特記事項等

科目のナンバリング  
SOB2402

## 研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 225研究室

## 電話番号

028-667-7111（代）

## 授業用E-mail

[yokoi@sakushin-u.ac.jp](mailto:yokoi@sakushin-u.ac.jp)

**成績評価法**

毎時間の出席確認を兼ねたリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書かれた授業へのコメントや質問の内容とグループワークでの取り組みなどの「授業への貢献度」、グループごとのプレゼンテーション、学期末に実施する「定期試験」の結果をあわせて、総合的に評価します。